

ODA

しゃりん 88

沖縄脊髄損傷者連合会

編集: 沖縄脊髄損傷者連合会 TEL/FAX 098-886-4211
〒903-0804 沖縄県那覇市首里石嶺町4-373-1西棟2階・ボランティア小規模団体室
Eメールアドレス sekiren@proof.ocn.ne.jp
ホームページアドレス <http://www.normanet.ne.jp/~ww500008/>

第26回

沖縄連定期総会開催

去る5月22日(土)、午後2:00〜午後5:00時、県総合福祉センター西棟2階小規模団体室において、第26回沖縄脊髄損傷者連合会定期総会が会員、賛助会員参加の下開催されました。

始めに会長の仲根から21年度の総括と諸活動に対する協力の御礼があり、次に21年度活動報告と21年度の収支決算報告がなされました。引き続き22年度活動計画、22年度予算案が報告され、質疑応答の後、出席者による拍手で21年度収支決算(案)22年度予算(案)が承認されました。又、役員改選では21

年度に引き続き会長に仲根建作が留任、新規の役員として前川敦、玉城敦司、山川綾が加わり22年度の役員が承認されました。

総会後は、障害者就労支援を通しIT企業に就職した会員の体験講話と、障害者就労支援機関「株式会社ウイングル」より、就労支援についての説明会が行われました。22年度役員は次のとおりです。



【会長】

仲根 建作

【副会長】

○神里 和彦

○野原 寿浩

【事務局長】

牧志 努

【会計・事務局】

○山川 綾

【書記】

○喜友名 恵

【監査】

大城 昌彦

【理事】

州鎌敏美 砂川昭人

山川淳二 當間貴志

仲里 進 荷川取礼子

○上里一之 ○玉城敦司

○前川 敦

○山入端依子

【相談役】

池原新栄 谷口正厚

高嶺 豊 ○新任役員

調査事業の報告書発行



就労体験講話、就労支援説明会の様子「株式会社ウイングル」

沖脊連では21年度に2つの調査事業を終えることが出来ましたが、本島をはじめ離島に調査員を派遣して調査表を配付し皆様にお願ひしていた「沖縄県における脊髄損傷者の生活状況に関する実態調査」ですが、調査報告書ができあがりました。皆さん調査ご協力ありがとうございました。各会員へ順次発送して

いきますので是非ご覧になって下さい。又、「沖縄県内の障がい者スポーツ振興策に関する調査研究事業」につきましても調査報告書を発行する事が出来ました。今後はその調査結果を活かす為に事業の展開に努力していこうと思っております。障がい者スポーツ振興に関する調査報告書をご希望の会員の方は沖脊連事務局までご連絡ください。

○沖脊連事務局

(098)88614211

JDF地域フォーラム

in 沖縄開催

平成22年3月27日(土)
PM1時30分～PM6時、嘉手納町中央公民館にて、障がいのある人もない

人も命輝く条例づくりの会主催により、JDF地域フォーラムin沖縄が開催されました。

これは、千葉県から始まった、障害者権利条例制定に向けた取り組みを、沖縄においても取り組むべきだと、約2年前に、県内に住む障害者たちが声を上げ、障がいのある人もない人も命輝く条例づくりの会が発足しました。本島や離島を含む各地域において、条例に関する勉強会やタウンミーティングを開催するとともに、共同代表で弁護士の岡島実氏を中心にして検討されてきた、障害者の権利に関する沖縄県条例(案)が県民に向けて、当日発表されました。

今後は、発表された条例



(案)を障害当事者や関係団体と理解を共有し連携を深めながら、来年3月を条例制定に見据え、賛同する方々の署名を集めて担当機関へ提出する予定です。

本条例(案)を多くの県民に見てもらい、関心を持っていただき、署名活動へ御協力を、この紙面をお借りしてお願いしたいと思います。

報告：上里一之

NPO法人がノンス テップバス運行

那覇空港を拠点に障害者や高齢者を無償で運ぶ「沖縄県美ら島ノンステップバス・そらぽーと号」の運行開始式が3月30日、那覇空港であった。燃料、駐車場の料金など実費以外は無料。6月1日から年中無休で本島全域で運行する。

運用するNPO法人「アフリーネットワーク会議」の親川修代表は「空港を拠点に障害者や高齢者を無償でぶバスは全国でも初めてだろう」と話している。5月1日から予約を受け付ける。

同会議は空港内に「那覇空港しようがい者・こうれい者観光案内所」を設けて

おり、障害者や高齢者から利便性の高いバスの運行を要望する声が出ていた。24人乗りで車いすのまま乗り降りできる。利用は2人以上で障害者交流のほか、障害者や高齢者が空港と自宅の移動時など。観光だけが目的の場合は対象外。障害者団体にも貸し出す。

○問い合わせ案内所
(098) 858-7760



(琉球新報より抜粋)

広告(ウイングル)

那覇市宮野球場バリアフリー見学記

今年4月に那覇市宮の奥武山野球場と屋内運動場がオープンしたので、1人で見学に行ってきた。昨年6月に同建設でのバリアフリー対策説明会を開催し意見提言させていただいた。特に同球場建設で参考にしたところが秋田県の「みちのく球場」とのことだったので、秋田県支部から感想等を聴取し参考にして具体的に提言したこともあり出来栄えに興味深々でチェックした。1階入口横にエレベーターがあり、内野スタンド最上部まで上がる事ができて、車いすスペースから場内を展望できた。また、外野の芝生にもアクセ

スでき、球場全体がバリアフリーであった。特に内野最前列席約40席が折りたたみ式で車いすスペースとなり快適であった。それでも不十分箇所も多く、エレベーター等の案内表示も含めた場内全体にバリアフリー対応の説明の表示が少なかったもので、初めての車いす利用者は戸惑いそうというのが感想で、高い評価であった。ところが、その後、後に事件が発生！オープン記念でのプロ野球2軍観戦チケットが販売されて、私の娘が観戦したいと希望があったので、電話で内野最前列席を予約申し出したところ、車いすスペースは、最後部であり、他は利用できないとのこと。私は怒り心頭で、那覇市行政の建設部

局等に苦情を申し入れ対策を求めたが、答えは、たしかに、内野最前列スペースは車いす対応型ですが、一般チケット販売対象にしてしまい、早くに売り切れてしまいましたので、次回以降はそのようなことがないように対処しますので、すみませんでした。と返事で、結果としては見る事ができませんでした。建設する側の考えが、運用する側に伝わらなかつたことが今回の問題点であった。ハードのバリアフリーを活かすのも心のバリアフリーですね。

報告：仲根



車椅子スペース席

広告(ちはる歯科)